

日本フラワービジネス大賞2017の受賞者の概要

一般財団法人日本花普及センター、日本花き取引コード普及促進協議会及びジャパンフラワーセレクション実行協議会は、花き業界関係者の幅広い参加協力を得て、平成18年から、①花きの新品種の開発・導入及び活用・普及について多大な貢献や先駆的な役割を担った者、②花きの流通・販売面で新技術の開発・導入や新たな需要開発に多大な貢献や先駆的な役割を担った者、③我が国花き産業の新たな課題について意欲的に取り組んでいる者（民間企業、試験研究機関、各種団体あるいは個人等）を選考・表彰しています。

今年度は、日本花き取引コード管理委員会での事前検討に基づき、平成29年12月22日（金）には、日本フラワービジネス大賞選考委員会（磯村信夫委員長）を開催して最終選考を行い、日本フラワービジネス大賞2017の受賞者を別紙のとおり決定しました。

また、平成30年1月9日（火）には、ジャパンフラワーセレクションの日本フラワー・オブ・ザ・イヤーの授賞式と併せて、上月良祐農林水産大臣政務官夫人 上月仁美様を特別ゲストとしてお迎えし、授賞式・特別講演を実施します。

（参考1） 日本フラワービジネス大賞選考委員会委員名簿 （順不同）

（氏名）	（所属名・役職名等）
委員長 磯村信夫	一般社団法人日本花き卸売市場協会 会長 （株式会社大田花き 代表執行役社長）
副委員長 安藤敏夫	千葉大学 名誉教授
委員 土井元章	京都大学大学院 教授
委員 飯塚 勲	一般財団法人日本花普及センター 顧問 （元 株式会社サカタのタネ 常務取締役 国内営業本部長）
委員 長岡 求	株式会社フラワーオークションジャパン 取締役
委員 秋田洋子	一般社団法人JFTD 理事 （株式会社はなや 代表取締役）
委員 金澤美浩	全国新品種育成者の会 会長 （有限会社矢祭園芸 代表取締役）

（参考2）

授賞式及び特別講演の日程

日 時： 平成30年1月9日（火） 13:00～18:00
 会 場： 東京大学弥生講堂一条ホール（東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部内）
 参加者： 花き業界関係者 約100名
 特別ゲスト： 上月良祐農林水産大臣政務官夫人 上月仁美 様

(別紙)

日本フラワービジネス大賞2017(第12回)の受賞者一覧

部 門	受賞者	受 賞 内 容
育種・生産 部門	<p>島根県農業技術センター</p> <p>(所長 吉田政昭)</p> <p>(島根県)</p>	<p>鉢花経営で最も改善が必要な春季品目に母の日の需要拡大が見込めるアジサイの導入が有望であると確信し、関係者を巻き込んだアジサイ振興を展開した。平成17年には、本センター普及部の普及課題にアジサイを掲げ、現地支援の取り組みを始めるとともに、有利販売も見据え本センターにおいてアジサイの新品種育成に向けた取り組みも開始した。</p> <p>国内最大の花き新品種コンテストで最高賞「フラワー・オブ・ザ・イヤー」を獲得した本センター育成品種「万華鏡(平成24年)」と「銀河(平成28年)」を生産振興の「核」とした生産販売体制により、ゼロから始まったアジサイ生産も平成28年産において生産額が1億円を超えるまでに成長した。</p>
流通・販売 部門	<p>株式会社メルシーフラワー</p> <p>(代表取締役 大間岩夫)</p> <p>昭和50年 創業 昭和63年 株式会社化</p> <p>(神奈川県)</p>	<p>創業以来「花屋」としての視点を大事にしつつ、もっと気軽に花を飾っていただきたいという思いで、昭和63年に株式会社メルシーフラワーを設立し、いち早く量販店向けカジュアルフラワーの加工・物流に取組み、新たな花き需要開拓に先駆的な役割を担った。</p> <p>更に、首都圏全域における取引店舗を40チェーン 600店舗(委託販売)に拡大し、また、3つの物流センターと関連会社による配送業務委託を運用してきめ細かいタイムリーな物流体制を整備して、年間売り上げは平成29年に45億円以上に達する見込み。</p>
チャレン ジ部門	<p>一般社団法人花いけジャパンプロ ジェクト</p> <p>(代表者：代表理事 日向雄一郎)</p> <p>平成23年 花いけバトル実行委 員会の発足 平成28年 一般社団法人化</p> <p>(東京都)</p>	<p>「花いけバトル」は、平成23年の花いけバトル実行委員会の発足を契機に、日本の花文化を伝承するとともに、いまの時代に相応した新たな花文化を創出する活動として開始された。その後、年間20回以上全国各地で観客参加型プログラムとして取り組まれ普及定着してきた。</p> <p>更に、平成29年には、香川県主催で、全国の地区大会を勝ち抜いた代表校が競う第一回全国高校生花いけバトル栗林公園杯2017が開催された。</p> <p>花いけバトル実行委員会の先駆的な役割機能を更に継承・発展する一般社団法人花いけジャパンプロジェクトの今後の活動に期待したい。</p>

(別紙)

<日本フラワービジネス大賞2017の受賞者>

(育種・生産部門)

島根県農業技術センター

代表： 所長 吉田 政昭

住所： 島根県出雲市芦渡町2440

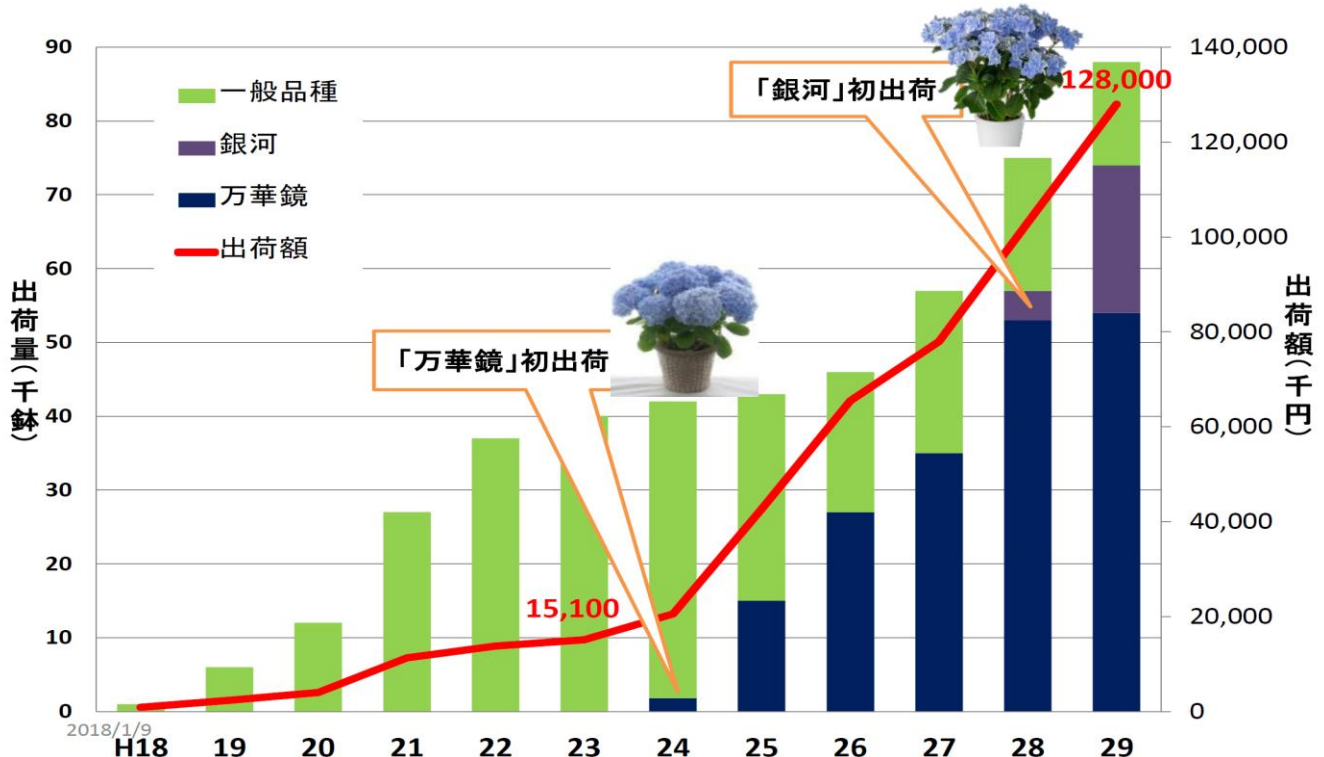
WEB： <http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/>**1 島根県農業技術センターの概要****～ 島根県オリジナル品種を核としたアジサイの生産拡大 ～**

島根県の鉢物経営は、春の花苗と冬のシクラメンを主体とした経営形態が多く、後継者やIターンによる若手生産者が多い状況にあったが、ガーデニングブームが去って以降、鉢物需要が減退し価格が下落傾向になる一方、灯油・資材価格の上昇による生産コスト増により、経営が年々厳しさを増し対策が急務となっていた。

このため、島根県農業技術センターは、鉢花経営で最も改善が必要な春季品目に的を絞り、具体的な検討を開始した。その結果、シクラメンと労力競合せず既存施設も有効活用でき、今後、母の日の需要拡大が見込めるアジサイの導入が有望であると確信し、関係者を巻き込んだアジサイ振興を展開した。平成17年には、本センター技術普及部の普及課題にアジサイを掲げ、現地支援の取り組みを始めるとともに、有利販売も見据え本センターにおいてアジサイの新品種育成に向けた取り組みも開始した。

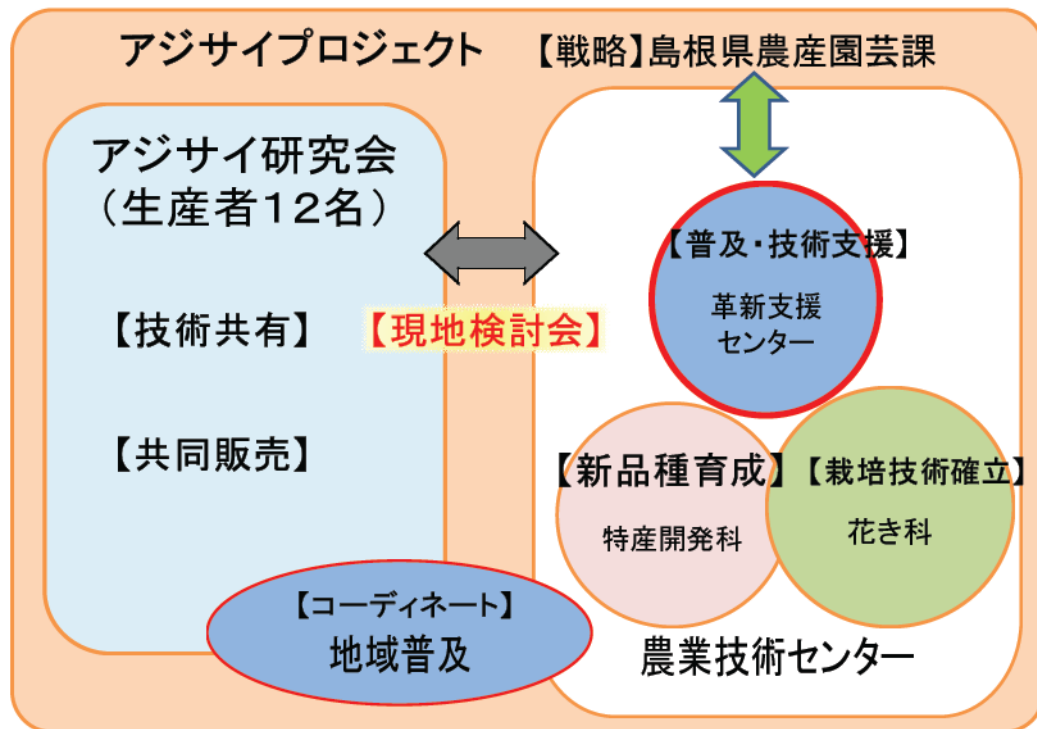
島根県におけるアジサイ県オリジナル品種を起爆剤とした取り組みは、本センターがプロジェクト活動の中心となり、鉢花経営者の新たな経営モデルを確立し、所得確保に大きく貢献してきた。

国内最大の花き新品種コンテストで最高賞「フラワー・オブ・ザ・イヤー」を獲得した本センター育成品種「万華鏡（平成24年）」と「銀河（平成28年）」を生産振興の「核」とした生産販売体制により、ゼロから始まったアジサイ生産も平成28年産において生産額が1億円を超えるまでに成長した。今後も引き続き、安定生産技術の検証と普及により、生産拡大と担い手の収益向上を支援していく。



2 島根県農業技術センターの主な産地対応

- ① 試験研究部門と普及部門が連携した栽培管理支援：
「万華鏡」と「銀河」の栽培管理にあたっては、試験研究部門と普及部門が連携して、品種特性に応じた管理マニュアルの作成（改訂）や現地指導を支援。
- ② チーム力で管理技術の早期確立：
生産者ほ場を活用した「現地検討会」を生育ステージ毎に開催（年14回程度）。生産者とセンターが常に情報を共有化し、チーム活動を通して迅速に課題解決を図るとともにメンバー相互のレベルアップ。
- ③ プロジェクト活動での商品づくり検討：
戦略会議である「アジサイプロジェクト」等により、生産者（島根県アジサイ研究会）と県が一体となってオリジナル品種にかかる商品づくりを検討。



アジサイプロジェクトによる支援体制

3 課題・今後の対応

- ① 生産管理技術の平準化（花色発現・草姿の均一化）
- ② 新規導入生産者の早期技術習得
- ③ 共同販売体制の強化（市場への安定供給）

(参考1)

島根県農業技術センターにおけるアジサイのオリジナル品種育成
—万華鏡、美雲—

1 品種育成の背景

- (1) 島根県は西日本有数のシクラメン産地であるが、1990年代以降、価格が低迷してきたことから、栽培施設のより効率的な活用を検討
- (2) シクラメンと労力競合がなく同等な収益を見込める品目として、「母の日」の鉢花需要に注目
- (3) 新規性を持つ品種の受け入れ素地があることからアジサイに着目し、生産現場への栽培導入を進めるとともに、H17年からオリジナル品種の育成を開始

2 開発のコンセプト

「母の日の贈り物」という視点で「贈る人」「贈られる人」に共に喜んでもらえる品種

3 育種目標

特異な花容、八重咲き、わい性

4 品種育成の経緯

- (1) H17年「隅田の花火」(八重・ガク)と「ミセスクミコ」(一重・テマリ)を交配
- (2) H18年、胚珠培養等により開花株(F1)獲得
- (3) H20年5月、F2開花個体を一次選抜
(生産者、県内市場・花店、県関係者にて選抜会を実施)
- (4) H21年、選抜系統を県外市場にて求評を実施し、評価の高かったものを有望系統として選抜(二次選抜)
- (5) H23年2月に品種登録出願(後に「万華鏡」、「美雲」と命名)

5 育成品種の特徴



- ・品種名「万華鏡」商標登録取得(商標第5472417号)
名前の由来: 万華鏡のようにきらびやかな花色を放っている

(品種特性)

- ・八重テマリ咲き
- ・花色のグラデーションが特徴
- ・ブルー、ピンクの両方の発色が可能
- ・細い枝でも花芽がつきやすい
- ・H24年初出荷

- ・品種名「美雲」商標登録取得(商標第5472416号)
名前の由来: 花がわき立つ雲のようにみえる

(品種特性)

- ・八重テマリ咲きで花付きが良い
- ・灰色味がかかったブルーの花色が特徴的
- ・ブルー、ピンクの両方の発色が可能
- ・H25年初出荷



(参考2)

島根県農業技術センターにおけるアジサイのオリジナル品種育成（第3弾）
— 銀河 —

1 品種育成の背景

- (1) 島根県は西日本有数のシクラメン産地であるが、1990年代以降、価格が低迷してきたことから、栽培施設のより効率的な活用を検討
- (2) シクラメンと労力競合がなく同等な収益を見込める品目として、「母の日」の鉢花需要に注目
- (3) 新規性を持つ品種の受け入れ素地があることからアジサイに着目し、生産現場への栽培導入を進めるとともに、H17年からオリジナル品種の育成を開始

2 開発のコンセプト

母の日の贈り物という視点で「贈る人」「贈られる人」に共に喜んでもらえる品種

3 育種目標

特異な花容、八重咲き、わい性

4 品種育成の経過

- (1) H17年「城ヶ崎」(八重・ガク)と「フラウタイコ」(一重・テマリ)を交配
- (2) H18年、胚珠培養等により開花株(F1)獲得
- (3) H20年5月、F2開花個体を一次選抜
(生産者、県内市場・花店、県関係者にて選抜会を実施)
- (4) H21年、選抜系統を県外市場にて求評を実施(二次選抜)
- (5) H24年9月に品種登録出願、12月に出願公表(出願第27431号)
- (6) H28年9月品種登録(品種登録番号:25410)

5 育成品種の特徴

- (1) 名前の由来：白く縁取られた周囲の花が夜空に散りばめられた星のようで、銀河を想像させる
- (2) 品種特性
 - ・八重のガク咲き(八重のテマリ咲きである万華鏡・美雲とは異なる花房)
 - ・開花が進むにつれ、両性花の弁が次第に盛り上がり伸長
 - ・花房・装飾花とも大きい
 - ・葯が存在しないため花粉脱落による汚れがない
 - ・ブルー、ピンクの両方の発色が可能



開花初期

→ 開花晩期

*開花が進むにつれ、
両性花部分の弁が伸長する

(3) 受賞歴

- ・2016 F & G ジャパンセレクション グランプリ
- ・新花コンテスト2016 園芸文化協会会長賞
- ・ジャパンフラワーセレクション2016-2017 日本フラワー・オブ・ザ・イヤー2016

(参考3)

ゼロからの出発！ みんなで創った、島根アジサイ産地

島根県農業技術センター

1 計画のねらい

本県の鉢花経営は、春の花苗と冬のシクラメンを主体とした経営形態が多く、後継者や1ターンによる若手生産者が多い状況にあった。しかし、ガーデニングブームが去って以降、鉢花需要が減退し価格が下落傾向にある一方、燃油・資材価格の上昇による生産コスト増により、経営は年々厳しさを増し、対策が急務となっていた。

そこで、鉢花経営で最も改善が必要であった春季品目に的を絞り、具体的な検討を開始した。その結果、シクラメンと労力競合せず既存施設も有効活用でき、今後母の日の需要拡大が見込めるアジサイの導入が有望であると確信し、関係者を巻き込んだアジサイ振興を展開してきた。

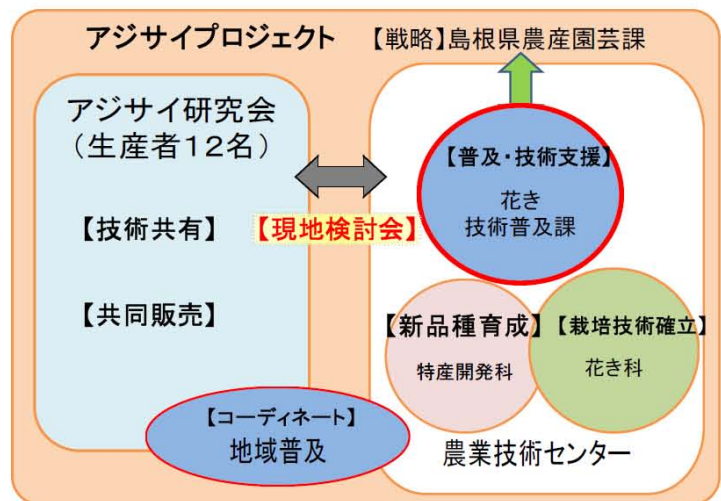
平成17年には、当センター技術普及部の普及課題にアジサイを掲げ、現地支援の取り組みを始めるとともに、有利販売も見据え、当センターにおいてアジサイの新品種育成に向けた取り組みも開始した。

本県におけるアジサイ県オリジナル品種を起爆剤とした取り組みは、当センターがプロジェクト活動の中心となり、鉢花経営者の新たな経営モデルを確立し所得確保につなげていくことを大きな目標としている。

2 アジサイプロジェクトの活動体制

プロジェクト活動を進める上で重要となる推進基盤が「アジサイプロジェクト」である。

そのプロジェクトの中心的役割を担うのが当センターであり、生産組織である島根県アジサイ研究会（以下「研究会」という）と行政をつなぎ、より効果的な活動ができるよう連携を深めている。



アジサイプロジェクトによる支援体制

3 取り組みの内容

(1) 導入期（平成17～19年）

アジサイの生産実績がほとんど無かった当県において、アジサイを新規品目として導入を図る上で、重要なポイントとなったのがモデル生産者の選定と育成であった。

当センターでは、経営改善を模索していた若手シクラメン生産者1戸をモデル生産者として位置付け、先進地調査や実証栽培を通じてアジサイの管理体系を指導した。

さらに、モデル生産者のほ場を現地実証ほとして位置付け、栽培データを蓄積し、地域内生産者への情報発信を積極的に行った結果、主体的にアジサイを導入する生産者が現れた。当初は若手中心の取り組みであったが、そこにベテラン生産者も加わり、新しい感覚とシクラメン栽培で蓄積された経験が融合し、アジサイへの関心や栽培意欲が大きく高まっていった。

ここで推進に当たって留意したのは、将来を見据えたリーダーを育成して生産体制づく

を行うこと、また、「アジサイを単に鉢花の一品目として栽培するのではなく、経営向上に繋がる本県の新たな鉢花主要品目として育てる」という視点で取り組むことであった。

生産安定を図るには栽培技術の早期確立が喫緊の課題であったが、指導サイドも十分な技術レベルに無かったことから、当センターと生産者が常に情報を共有し、「協働で産地をつくる」という意識で推進を図った。

当センターの研究ほ場とモデル生産者のほ場を活用した「勉強会」をアジサイの生育ステージに合わせて開催し、基本管理の習得を図った。また、生育調査や実証データを基にした栽培基準づくりを行い、早期の技術確立を目指した。

(2) 進展期（平成20～22年）

平成21年度から県が中心となり生産者と関係機関が一体となった「アジサイプロジェクト」を立ち上げ、新商品の開発や新たな販売手法などを検討する戦略会議を開催した。戦略会議では、ビジョンや目標を共有し、関係者が一丸となった活動を展開した。

当センターでは、生産・販売を行う体制づくりを支援し、平成22年に、アジサイで春の基幹品目の再構築を図ろうとする意欲的な生産者6戸が集まり、「勉強会」から発展した「島根県アジサイ研究会」が発足した。

このチーム活動を通じて個々では対応が難しい課題の解決に取り組むとともに、現地検討会ではメンバー相互のスキルアップを図った。

平成17年からスタートした品種育成であるが、当センターでは市場性調査や現地試験で得られた有望系統の高い評価等を生産者、行政等に繋ぎ関係者が一体となって新品種を育てていくという意識の共有に努めるなど、新品種育成の動きも牽引した。



県オリジナル品種の市場性調査

(3) 拡大期（平成23～29年）

当センターが育成した県オリジナル品種の市場投入に当たっては、新品種の国内コンテストであるジャパンフラワーセレクションへの出品を経て、各市場との商談を実施し販売を行う仕組みづくりを支援した。オリジナル品種第1号の「万華鏡」と新商品である第3号「銀河」は最優秀賞である日本フラワー・オブ・ザ・イヤーを受賞するなど、その反響は大きく、その後の商談や販売に大きく貢献した。

オリジナル品種の商品性向上と有利販売には、生産者の技術レベルの高位平準化が必要であることから、当センターでは鉢花生産では全国的にも事例の少ない「生産管理（技術）の共有化」について誘導し、現地指導を行っている。

母の日に欠かせない商品としてポジションを確立したオリジナル品種であるが、生産者



島根県オリジナル品種「万華鏡」

からは「これはアジサイではない」と言われるほど、これまでの既存品種とは違った繊細さを備えた品種であり、開花までの栽培管理の難しさに課題を抱えている。

特に最も重要な課題は、品種特性である花色発現の均一化や、健全な苗の生産であり、生育調査株の設置や生産者が主体的に参画する定期巡回および検討会の開催、試験研究・現地実証成果をいち早く反映したマニュアルの改訂等により商品性向上に努めている。

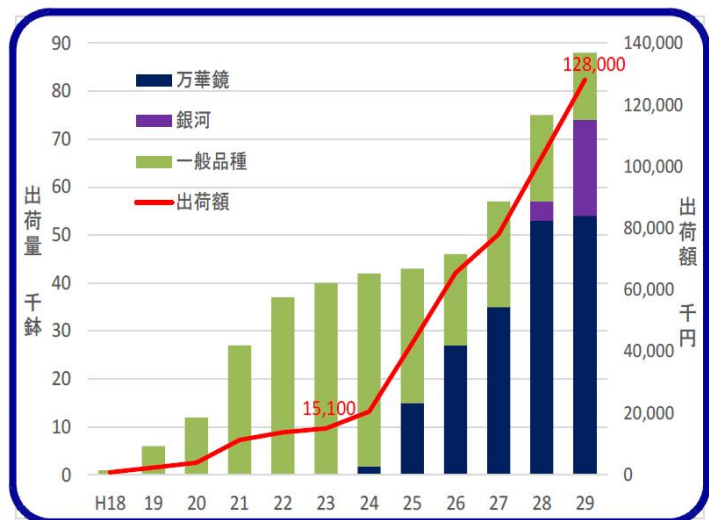


島根県オリジナル品種「銀河」

4 当センターの役割

平成29年には生産者も12戸に増え、栽培地域も広がっていくなか、技術レベルの底上げと共同販売における規格を厳守し、品質を揃え、共同販売への信頼性を高めていくため、生産管理技術等の周知徹底、新規生産者においては早期の技術習得を図るための支援、研究会活動の課題整理やICT機器も活用した情報共有などにも取り組んでいる。

当センターは、より高度な技術提供と行政等との連携強化、プロジェクト全体を見渡した仕組みづくり支援などの役割を担っている。



島根県アジサイ生産の推移

5 今後の課題

オリジナル品種初出荷から6年を経て、オリジナル品種を核とした島根アジサイのブランド化や収益確保には一歩前進したが、安定した品質および生産量の確保、新規生産者の早期技術習得、共選共販体制の強化には課題を残しており、今後も関係者一丸となって支援していく必要がある。

アジサイ県オリジナル品種を起爆剤とした取り組みが、より高度に、より専門的になるなか、当センターに求められるレベルや期待は年々高くなっている。アジサイ振興が鉢物農家の経営改善や活性化、島根農業の発展に貢献できるよう関係者が連携して取り組めるプロジェクト活動を一層推進していきたい。



現地検討会で管理技術を共有

<日本フラワービジネス大賞2017の受賞者>**(流通・販売部門)****株式会社メルシーフラワー**

代表者 : 代表取締役 大間岩夫
 住所 : 神奈川県相模原市緑区橋本台3-18-17
 設立 : 昭和50年(1975) 創業 昭和63年(1988) 株式会社化
 WEB : <http://www.merci.co.jp/>

(企業概要)

資本金 : 3,000万円
 従業員 : 250人
 年間売上 : 45億円 (グループ年商66億円:仕入れ会社(株)ドリーム分含む)

1 株式会社メルシーフラワーの概要**～ 量販店向けカジュアルフラワーの加工・物流のパイオニアとして新たな花き需要を開拓 ～**

メルシーフラワーは、創業以来「花屋」としての視点を大事にしつつ、もっと気軽にお花を飾っていただきたいという思いで、昭和63年に株式会社メルシーフラワーを設立し、いち早く量販店向けカジュアルフラワーの加工・物流に取組み、新たな花き需要開拓に先駆的な役割を担った。

更に、首都圏全域における取引店舗を40チェーン 600店舗(委託販売)に拡大し、また、3つの物流センターと関連会社による配送業務委託を運用してきめ細かいタイムリーな物流体制を整備して、年間売り上げは平成29年に45億円以上に達する見込み。

業務内容

WORKS

当社では、お取引先となる
 量販店向けカジュアルフラワーの
 製造・納品・売場作りから、
 委託販売^{※注1}を中心に販売活動を
 展開しております。

さらに、3つの物流センターと
 関連会社による配送業務委託を運用し、
 関東一円、万全の物流体制を整えています。

**近年の年間売り上げの推移**

年	年間売り上げ 千万円	年間伸び率 %
平成25年	359	100.0%
平成26年	389	108.4%
平成27年	405	104.1%
平成28年	416	102.7%
平成29年	451	108.4%



2 メルシーフラワーの特色

株式会社メルシーフラワーは、お取引先となる量販店向けカジュアルフラワーの製造・納品・売場作りのパイオニアとして、委託販売を中心に販売活動を展開。

(委託販売のメリット)

- ・国内外の生産地・市場からのスケールメリットを生かした花材調達
- ・長年のパッケージノウハウの蓄積による優れた加工技術と高い生産性
- ・首都圏を網羅する物流ネットワークと、機動力を生かした店舗直納配送
- ・販売ノウハウを持つ専門担当者による売場巡回・メンテナンス
- ・販売力アップのための商品研究とお客様ニーズを取り入れた多彩な品揃え
- ・首都圏40チェーン・600店舗の信頼と実績

(販売形式の種類)

お取引先様のニーズに応じて、以下の2つの取引形態をご提案。

① 委託販売：

取引先店舗のスペースを間借りして商品を陳列し、売れた分から所定のマージンを差し引いた金額を請求できる取引形態で、売上納品ともいう。

② 買取販売：

商談において決定された商品規格および納入価格を記載したメニュー表に基づいて、商材の仕入・加工・納品を行い、買取側（取引先店舗）のリスク負担の元に販売する取引形態。



ブーケ加工



物流センターと配送車



メルシーフラワーの直営店も展開



(参考 1)

株式会社メルシフラワーの沿革

- 昭和 63 年 07 月 (1988 年) 東京都八王子市に株式会社メルシフラワーを設立
- 平成 元年 02 月 (1989 年) 東京都八王子市東浅川町に民間初のカジュアルフラワー加工工場を開設
- 平成 04 年 01 月 (1992 年) 神奈川県相模原市星ヶ丘に直営店兼加工場を開設
- 平成 07 年 06 月 (1995 年) 星ヶ丘の直営店兼加工場を閉店
神奈川県相模原市橋本台に神奈川物流センター (現本社) を開設
カジュアルフラワー加工・委託販売の物流機能を集約し、加工ライン移転増設
東京都八王子市散田町に直営店散田店を開店
- 平成 12 年 03 月 (2000 年) 東京都信用金庫協会より第 13 回優良企業表彰制度・日本経済新聞社賞を受賞
- 平成 12 年 07 月 (2000 年) 埼玉県三郷市に埼玉第 1 物流センターを開設
- 平成 13 年 03 月 (2001 年) 東京都八王子市元八王子町に直営店元八王子店を開店
- 平成 14 年 10 月 (2002 年) 東京都大田区に東京物流センターを開設
- 平成 14 年 12 月 (2002 年) 仕入部門を分社化し、子会社の有限会社ドリームを設立
- 平成 16 年 04 月 (2004 年) 埼玉県三郷市に埼玉第 2 物流センターを開設
- 平成 17 年 10 月 (2005 年) 東京物流センターを閉鎖
- 平成 20 年 07 月 (2008 年) 設立から 20 周年を迎える
- 平成 24 年 04 月 (2012 年) 埼玉第 1・第 2 物流センターを統合し埼玉県三郷市に埼玉物流センターを開設
- 平成 25 年 07 月 (2013 年) 千葉県四街道市に千葉物流センターを開設
- 平成 26 年 01 月 (2014 年) 直営店散田店をリニューアルオープン

(参考 2)

株式会社メルシーフラワーにおける主な取引先 (順不同・敬称略)

- ・株式会社いなげや
- ・株式会社イトーヨーカ堂
- ・株式会社マルエツ
- ・小田急商事株式会社
- ・株式会社ヤオコー
- ・株式会社マミーマート
- ・株式会社東武ストア
- ・相鉄ローゼン株式会社
- ・イオンマーケット株式会社
- ・株式会社カスミ
- ・株式会社エコス
- ・株式会社スーパーアルプス
- ・株式会社島忠
- ・株式会社与野フードセンター
- ・株式会社ヨークマート
- ・株式会社トップ
- ・株式会社三徳
- ・マックスバリュ関東株式会社
- ・マックスバリュ東海株式会社
- ・サミット株式会社
- ・ etc

<日本フラワービジネス大賞2017の受賞者>**(チャレンジ部門)****一般社団法人花いけジャパンプロジェクト**

代表者 : 代表理事 日向雄一郎

住所 : 東京都港区芝公園1-7-18 (株)日向いけばなスタデオ内

WEB : <http://hanaikebattle.com/> (花いけバトルのfacebook)

設立 : 平成23年 花いけバトル実行委員会の発足 平成28年 一般社団法人化

1 一般社団法人花いけジャパンプロジェクト**～ 時代に相応した花文化を育み・花の魅力を力強く伝える「花いけバトル」の創出と普及 ～**

「花いけバトル」は、平成23年(2011)の花いけバトル実行委員会の発足を契機に、日本の花文化を伝承するとともに、いまの時代に相応した新たな花文化を創出する活動として開始された。その後、年間20回以上全国各地で観客参加型プログラムとして取り組まれ普及定着してきた。

更に、平成29年(2017)には、香川県主催で、全国の地区大会を勝ち抜いた代表校が競う第一回全国高校生花いけバトル栗林公園杯2017が開催された。平成30年(2018)の第二回全国高校生花いけバトルに向けて全国各地で選抜予選が多く都道府県で計画されつつある。

花いけバトル実行委員会の先駆的な役割機能を更に継承・発展する一般社団法人花いけジャパンプロジェクトの今後の活動に期待したい。

「花いけバトル」とは、

- ・ 即興で花をいける、制限時間は5分間
- ・ 花き業界のあらゆる垣根を越え、真剣に花と人と向き合う場
- ・ バトル(対戦)方式を用いることにより、花いけの魅力をわかりやすく万人に伝える
- ・ ジャッジメント(審査)はオーディエンス(観客)、観客参加型プログラム
- ・ 日本の花文化伝承すると共に、いまの時代に相応した新しい花文化を創出する



<花いけバトルの魅力>

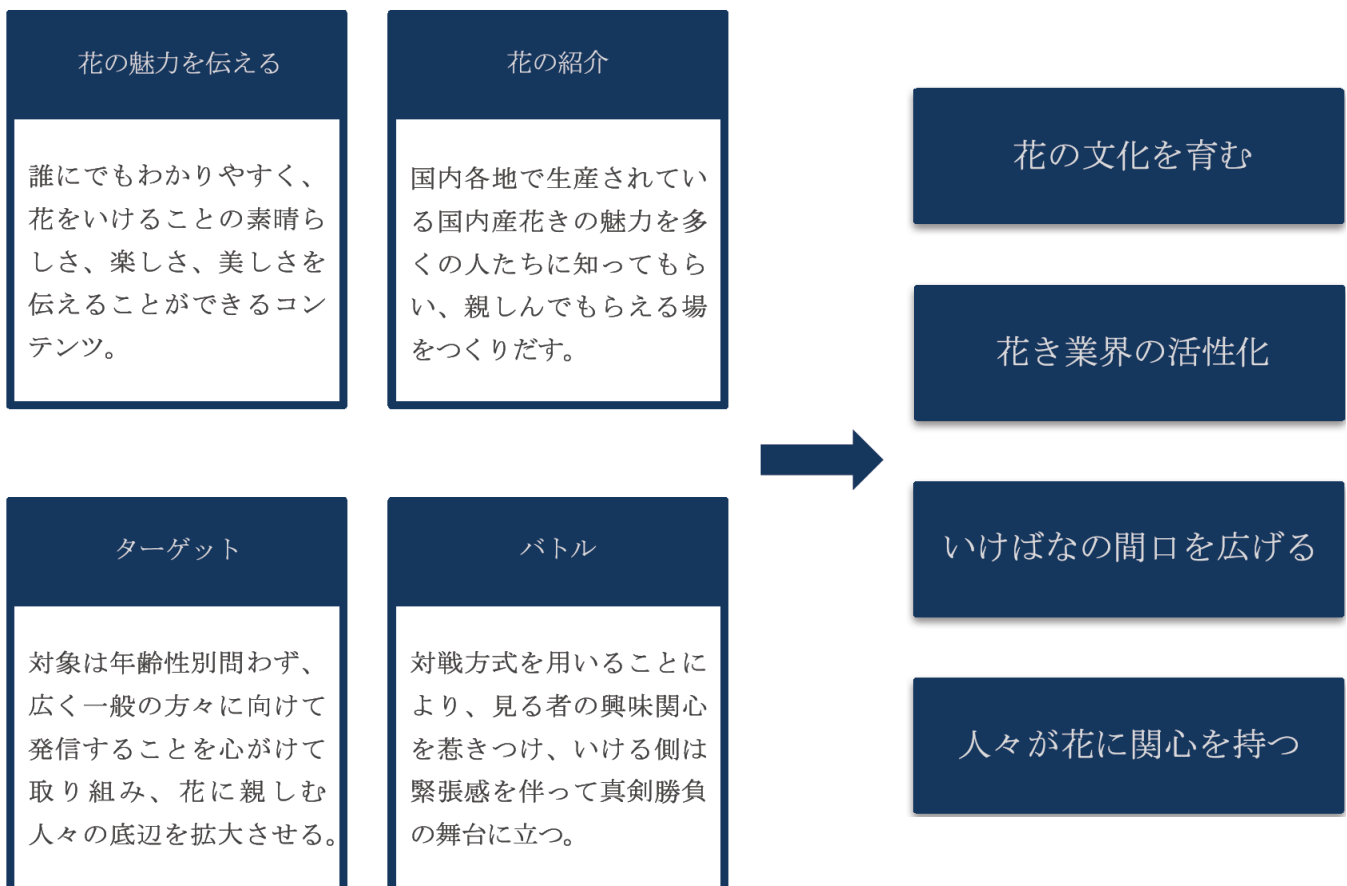
観客の眼前で複数のバトラーが花をいけ、対戦する
ジャッジメントは極めてシンプル
観客を魅了させたバトラーの勝ち

即興で花をいける
その時間はわずかに5分間
この時間制限が花のいけ手（バトラー）を刺激し
限界を越えたパフォーマンスを誘います

曝け出すこと暴き出すこと
果てることのない情熱のぶつかり合い

「花いけ」の素晴らしさを万人に広めること
競い合うことによって自らを高め、更なる美しさを求めることを目指し
常に進化を続け感動を追い求め続ける「花いけバトル」
かつて前例のないインパクトを携えながら
いまの時代に相応しいかたちで日本の花文化を育み
花の魅力を力強く伝える試み
すべては心震える瞬間に出会うために
それが「花いけバトル」です

<花いけバトルが生み出すもの>



(参考1)

<花いけバトルの開催記録>



ARCHIVE 2011.08 ~ 2013.12

2011.08	「第1回 花いけバトル」	山羊に聞く? : 代官山
2011.11	「第2回 花いけバトル」	山羊に聞く? : 代官山
2012.02	「第3回 花いけバトル」	山羊に聞く? : 代官山
2012.05	「花いけバトル 小競り合い勃発」	渋谷シダックスビレッジ : 渋谷
2012.05	「闘う花会 三連日」	三溪園 旧燈明寺本堂 : 横浜
2012.06	「第4回 花いけバトル」	山羊に聞く? : 代官山
2012.08	「第5回 花いけバトル」	山羊に聞く? : 代官山
2012.09	「花いくさ」	中院 : 川越
2012.10	「第6回 花いけバトル」	山羊に聞く? : 代官山
2012.10	「花いけバトル SPECIAL EDITION」	ランドマークプラザ : 横浜
2012.12	「花いけバトル 王者決定戦」	八芳園 : 白金
2013.04	「LIVIZM 花いけバトル vol.07」	月見ル君想フ : 南青山
2013.05	「花いけバトル SPECIAL EDITION」	渋谷シダックスビレッジ : 渋谷
2013.06	「LIVIZM 花いけバトル vol.08」	月見ル君想フ : 南青山
2013.08	「LIVIZM 花いけバトル vol.09」	月見ル君想フ : 南青山
2013.10	「花いけバトル in 国際フラワーEXPO」	幕張メッセ : 千葉
2013.10	「花いけバトル SPECIAL EDITION」	池袋サンシャインシティ : 池袋
2013.10	「LIVIZM 花いけバトル vol.10」	月見ル君想フ : 南青山
2013.11	「LIVIZM 花いけバトル vol.11」	月見ル君想フ : 南青山
2013.12	「LIVIZM 花いけバトル GP王者決定戦 2013」	八芳園 : 白金



ARCHIVE 2014.02 ~ 2015.03

2014.02	「花いけバトル 王者決定戦シリーズ 第一戦 2014」	スパイラル@CAY : 表参道
2014.03	「花いけバトル PINK EDITION」	ランドマークプラザ : 横浜
2014.03	「花いけバトル in 観音寺」	gaouv rabari : 香川県
2014.04	「花いけバトル in 大磯」	聖ステパノ学園 海に見えるホール : 大磯
2014.04	「Art In Spring Field」	Le Baron de Paris : 青山
2014.05	「花いけバトル 王者決定戦シリーズ 第二戦 2014」	スパイラル@CAY : 表参道
2014.08	「花いけバトル 王者決定戦シリーズ 第三戦 2014」	スパイラル@CAY : 表参道
2014.09	「花いけバトル in 宮島」	大本山大聖院 : 広島県
2014.10	「花いけバトル in ダリアの華展」	池袋サンシャインシティ : 池袋
2014.10	「花いけバトル in IFEX特別編」	幕張メッセ : 千葉
2014.10	「花いけバトル in 仙台」	勾当台公園 : 宮城
2014.11	「花いけバトル in オランダ」	Flora Holland Fair : オランダ
2014.11	「花いけバトル 王者決定戦シリーズ 第四戦 2014」	スパイラル@CAY : 表参道
2015.01	「花いけバトル 王者決定戦シリーズ 第五戦 2014」	スパイラル@CAY : 表参道
2015.02	「天空の花いけバトル」	池袋サンシャインシティ : 池袋
2015.02	「花いけバトル in 香川」	サンメッセ香川 : 香川
2015.03	「花いけバトル PINK EDITION II」	ランドマークプラザ : 横浜
2015.03	「花いけバトル 王者決定戦 2014」	八芳園 : 白金





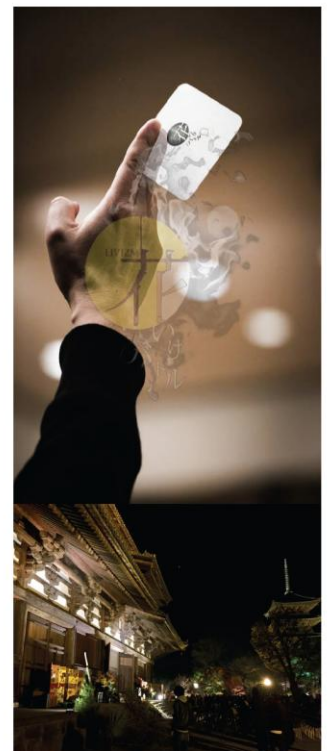
ARCHIVE 2015.04 ~ 2015.12

- 2015.04 「花いけバトル in 京都」 京都市勤業館みやこめっせ：京都
- 2015.04 「花いけバトル in 茨城」 ホテルテラスザガーデン水戸：茨城
- 2015.07 「花いけバトル 2015 Real 第1戦」 スパイラル@CAY：表参道
- 2015.08 「Distance Between Zero & One」 山羊に、聞く？：代官山
- 2015.09 「花いけバトル in イオンモール綾川」 イオンモール綾川：香川
- 2015.09 「花いけバトル 2015 Real 第2戦」 スパイラル@CAY：表参道
- 2015.10 「花いけバトル in 栗林公園」 栗林公園：香川
- 2015.10 「花いけバトル in ダリアの華展」 池袋サンシャインシティ：池袋
- 2015.10 「花いけバトル in 仙台」 勾当台公園：宮城
- 2015.10 「花いけバトル 番外編」 BMW MINI@東京モーターショー：有明
- 2015.11 「花いけバトル in アールスメア」 Flora Holland：オランダ
- 2015.11 「花いけバトル in IFTF」 Expo Haarlemmermeer：オランダ
- 2015.11 「花いけバトル in Hilverda」 Hilverda：オランダ
- 2015.11 「花いけバトル in Boerma Instituut」 Boerma Instituut：オランダ
- 2015.11 「花いけバトル 2015 Real 第3戦」 スパイラル@CAY：表参道
- 2015.12 「花いけバトル in 東寺」 東寺：京都
- 2015.12 「花いけバトル in なんばパークス」 なんばパークス：大阪
- 2015.12 「花いけバトル番外編 Distance Between Zero & One」 山羊に、聞く？：代官山



ARCHIVE 2016.01 ~ 2016.12

- 2016.01 「花いけバトル 2015 Real 第4戦」 スパイラル@CAY：表参道
- 2016.01 「花いけバトル in 高知」 高知ちばさんセンター：高知
- 2016.02 「花いけバトル in 東京ベイコート倶楽部」 東京ベイコート倶楽部：台場
- 2016.02 「第1回 高校生花いけバトル」 サンメッセ香川：香川
- 2016.02 「オリーブカップ争奪 花いけバトル in かがわ」 サンメッセ香川：香川
- 2016.03 「花いけバトル in 岐阜」 岐阜で愛ドーム：岐阜
- 2016.03 「花いけバトル 王者決定戦 2015」 八芳園：白金
- 2016.04 G7サミット閣僚会合 歓迎レセプション 香川県高松市
- 2016.06 「花いけバトル in 山手西洋館CUP」 山手西洋館：横浜
- 2016.06 「花いけバトル in 大田市場2016」 東京都卸売市場大田市場
- 2016.07 「花いけバトル in 信州」 キッセイ文化ホール：松本
- 2016.08 「高校生花いけバトル in 岐阜」 花フェスタ記念公園：岐阜
- 2016.08 「花いけバトル 'REAL' SUMMER」 品川プリンスホテル クラブeX
- 2016.08 「第2回 高校生花いけバトル in 香川」 高松サンポートホール：香川
- 2016.09 「花いけバトル in 新庄もがみ」 最上広域交流センター ゆめりあ：山形
- 2016.10 「高校生花いけバトル in 福井」 福井
- 2016.10 「花いけバトル in 関ヶ原の合戦2016」 徳川家康最後陣跡：岐阜
- 2016.10 「花いけバトル in 宮城」 勾当台公園：宮城
- 2016.10 「花いけバトル in 京都」 東寺：京都
- 2016.11 「花いけバトル 岐阜県民大会」 花フェスタ記念公演：岐阜
- 2016.12 「花いけバトル in ツー・ナイン・ジャパン」 ホテルグランビア京都：京都
- 2016.12 「花いけバトル in 四国」 栗林公園：香川





ARCHIVE 2017.01 ~ 2017.11

- 2016.12 「花いけバトル in 上海」 在上海日本国総領事館：中国
- 2017.01 「花いけバトル 'REAL' WINTER」 品川プリンスホテル クラブeX
- 2017.01 「花いけバトル in 大垣」 大垣グランドホテル：岐阜
- 2017.01 「花いけバトル in 高知」 高知ぎばさんセンター：高知
- 2017.02 「花いけバトル in PARIS」 パリ：フランス
- 2017.02 「花いけバトル in FAJ生産者大会」 品川
- 2017.02 「花いけバトル in 香川 団体戦」 サンメッセ香川：香川
- 2017.03 「花いけバトル 王者決定戦 2016」 東寺：京都
- 2017.05 「花いけライブ in ひろしまフラワーフェスティバル」 平和記念公園：広島
- 2017.05 「花いけバトル in 沖縄メンソーレフェスタ」 サンシャインシティ：東京
- 2017.06 「花いけバトル in 横浜 ～横浜NIGHT」 横浜山手西洋館 横浜市イギリス館：横浜
- 2017.06 「花いけバトル in 大阪つるみ」 三井アウトレットモール鶴見：大阪
- 2017.08 「花いけバトル in 沖縄 ～JA沖縄 女性部交流会」 沖縄
- 2017.08 「花いけバトル 'REAL' SUMMER」 品川プリンスホテル クラブeX
- 2017.09 「花いけバトル in 山形 ～新庄もがみフラワーフェスティバル」 新庄：山形
- 2017.10 「花いけバトル in 岐阜」 花フェスタ記念公演：岐阜
- 2017.10 「花いけバトル 関ヶ原の合戦 2017」 徳川家康最後の陣跡 関ヶ原：岐阜
- 2017.10 「花いけバトル in 仙台」 勾当台公園 仙台：宮城
- 2017.10 「花いけバトル in 大手町」 大手町ファーストスクエアビル：東京
- 2017.11 「花いけバトル in 沖縄」 イオンモール沖縄ライカム：沖縄
- 2017.11 「花いけバトル in 京都」 ロームシアター京都：京都
- 2017.11 「花いけバトル in 福岡」 ソラリアプラザ：福岡

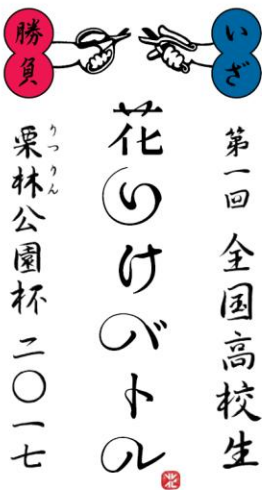


(参考2)

LOGO

第一回全国高校生花いけバトルレポート

POSTER



FLYER



(参考2)

決勝大会2日目

開催日 2017年8月20日(日)
 開演 10:00～
 会場 栗林公園 商工奨励館
 主催 全国高校生花いけバトル実行委員会



宮城県柴田農林高等学校	滋賀県立湖南農業高等学校
〔 モルフォ 〕	〔 フラワーボーイズ 〕
大阪府立枚岡樟風高等学校	岐阜県立恵那農業高等学校
〔 緑 〕	〔 くるみらい 〕
優勝 「 モルフォ 」 宮城県柴田農林高等学校	
来場者数：200人	
<p>本大会に出場した高校生花いけバトラーは、5分という短い時の中で最高に輝いていた。決勝大会に臨んだ彼らは、花と共に全力で駆け抜けていた。花をいけることは美しい。花をいける人は輝いている。そんな場面に出会った瞬間、私たちは生きていることに感動する。栗林公園内に込められた思いが現実のものとなり、宮城県柴田農林高等学校 チーム「モルフォ」の大庭涼佳、山田愛里沙がその杯の栄光を手にし、第1回大会の幕が閉じられた。</p>	

決勝大会1日目

開催日 2017年8月19日(土)
 開演 13:00～
 会場 サンポートホール高松 第2小ホール
 主催 全国高校生花いけバトル実行委員会



神奈川県立麻生総合高等学校	福井県立奥越明成高等学校	宮城県柴田農林高等学校
〔 麻総1 〕	〔 みー&いっしー 〕	〔 モルフォ 〕
滋賀県立湖南農業高等学校	広島工業大学高等学校	大阪府立枚岡樟風高等学校
〔 フラワーボーイズ 〕	〔 まんじゅしゃげ 〕	〔 緑 〕
福岡県立修猷館高等学校	岐阜県立恵那農業高等学校	文明高等学校
〔 為と鹿P 〕	〔 くるみらい 〕	〔 與 〕
準決勝進出チーム 「モルフォ」宮城県柴田農林高等学校 「くるみらい」岐阜県立恵那農業高等学校 「フラワーボーイズ」滋賀県立湖南農業高等学校 「緑」高松第一高等学校		
来場者数：350人		
<p>全出場チーム77校、123チーム、246名の第1回全国高校生花いけバトル。この頂点を目指す決戦の1日目。全国から集まった9チーム18名が渾身の花いけを魅せた。がんばってお花をいける。がむしゃらにお花をいける。心をこめてお花をいける。すべてが美しく、爽やかで、尊い時間であった。出場した高校生花いけバトラーも、その熱き姿を見守った観客も、心震える瞬間がそこにあったことを、それぞれの胸に刻んだ一日であった。</p>		

(参考2)
東北大会 in 仙台

開催日 2017年7月9日(日)
開演 13:00～
会場 泉パークタウン タビオ
主催 一般社団法人花いけジャパンプロジェクト



青森県立柏木農業高等学校 「かしわっこ」	青森県立名久井農業高等学校 「Team FLORA だった2人」	青森県立久井農業高等学校 「first bloom」
宮城県加美農業高等学校 「おじなっば」	宮城県気仙沼高等学校 「気仙沼高校」	宮城県蔵王高等学校 「蔵王高校華道部1」
聖和学園高等学校 「チーム SEG-1」	聖和学園高等学校 「チーム SEG-2」	仙台白百合学園高等学校 「仙台白百合 Aチーム」
宮城県石巻北高等学校 「amber」	宮城県石巻北高等学校 「凜」	宮城県田美農業高等学校 「NJ」
宮城県蔵王高等学校 「蔵王高校華道部2」	宮城県柴田農林高等学校 「FELICIA」	宮城県柴田農林高等学校 「モルフォ」
仙台白百合学園高等学校 「仙台白百合 Bチーム」	東北生活文化大学高等学校 「十鶴」	

優勝 「モルフォ」 宮城県柴田農林高等学校

来場者数：300人

仙台の商業施設「泉パークタウン タビオ」が東北大会の舞台。北は遠く青森県からの参加もあり、熱心な高校生パトラーが数多くの一般来館者に見守られ、熱戦を繰り広げた。前日に開催された近畿大会と同様、この地でも輝いていたのが男子チーム。1年生コンビ「十鶴」は自由な発想で花いけを。一方、笑顔と共に5分間の花いけを駆け抜けた「モルフォ」。両者の戦いは笑顔の「モルフォ」が最後勝利した。



九州大会 in 福岡

開催日 2017年7月29日(土)
開演 13:00～
会場 福岡県花卉農業協同組合地方卸売市場 福岡花市場
主催 一般社団法人花いけジャパンプロジェクト



福岡県立修猷館高等学校 「ウィーブルーム」	福岡県立修猷館高等学校 「為と鹿P」	福岡県立武蔵台高等学校 「Musacy」
福岡市立福岡女子高等学校 「うさJOY」	福岡市立福岡女子高等学校 「福JOY」	筑紫女学園高等学校 「T&SUMMER LILIES」
筑紫女学園高等学校 「ぶーべん」	福岡雙葉高等学校 「梨と華」	佐賀県立唐津南高等学校 「fleur」
佐賀県立唐津南高等学校 「リトルウッズ」	早稲田佐賀高等学校 「八太郎」	早稲田佐賀高等学校 「早稲田佐賀」
長崎県立諫早農業高等学校 「長崎諫農A科」	熊本県立熊本工業高等学校 「チーム「KJ2」」	熊本県立熊本工業高等学校 「チーム「熊工健児」」
熊本県立御船高等学校 「つぼみ」	日本文理大学附属高等学校 「Iris」	日本文理大学附属高等学校 「百彩」

優勝 「為と鹿P」 福岡県立修猷館高等学校

来場者数：250人

福岡をはじめ、4県にまたがりエントリーの応募があった九州大会。地元産の豊かな花材に恵まれ、はつらつと爽やかな作品の数々が生まれた。各地の地区大会を通じて思うのは、熱心な部活動の指導者は実力派の高校生花いけパトラーを育てる。それはここ九州大会でも同様であり、決勝トーナメントはハイレベルな展開へ。混戦、接戦を制したのは「為と鹿P」の2年生ペア。



(参考)

これまでの日本フラワービジネス大賞の受賞者一覧

年次	部門	受賞者
2016 (11回)	育種・生産部門	福岡県花き園芸連合会新品種審査会 (主催者：福岡県花き園芸連合会 会長 原 坦利) (福岡県)
	流通・販売部門	静岡県東部花き流通センター農業協同組合 (代表者：代表理事組合長 内藤宗尊) (静岡県)
	チャレンジ部門	あしかがフラワーパーク (運営会社：株式会社足利フラワーリゾート 代表取締役社長 早川慶治郎) (栃木県)
2015 (10回)	育種・生産部門	国営越後丘陵公園「国際香りのばら新品種コンクール」運営委員会 (運営委員長 石川直樹) (新潟県)
	流通・販売部門	長崎県花き振興協議会 (会長 矢竹友喜) (長崎県)
	チャレンジ部門	花の国日本協議会静岡連合 (会長 坂本吉弘) (静岡県)
2014 (9回)	育種・生産部門	富山県花卉球根農業協同組合 (代表理事組合長 清都和文) (富山県)
	流通・販売部門	株式会社なにわ花いちば (代表取締役 大西 進) (大阪府)
	チャレンジ部門	「みやざき花で彩る未来」推進協議会 (会長 松本拓真) (宮崎県)
	東日本大震災復興 特別賞	特定非営利活動法人 Green Fields (理事長 吉川三枝子) (岩手県)
2013 (8回)	育種・生産部門	株式会社サカタのタネ (代表取締役社長 坂田 宏) (神奈川県)
	流通・販売部門	株式会社ユニバーサル園芸社 (代表取締役社長 森坂拓実) (大阪府)
	チャレンジ部門	フラワートライアルジャパン実行委員会 (実行委員長 景山英治) (長野県・山梨県)

日本フラワービジネス大賞2017の受賞者の概要

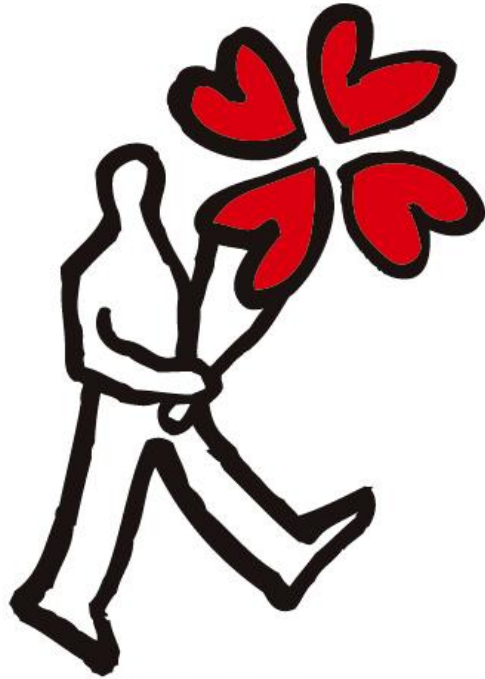
平成30年1月9日

	東日本大震災復興特別賞	花と緑の力で3.11プロジェクトみやぎ委員会 (委員長 鎌田秀夫) (宮城県)
2012 (7回)	育種・生産部門	株式会社河野メリクロン (代表取締役社長 河野通郎) (徳島県)
	流通・販売部門	株式会社ハルディン (代表取締役 篠原 茂) (千葉県)
	流通・販売部門	株式会社ユー花園 (代表取締役会長 山田祐也、代表取締役社長 山田大平) (東京都)
	チャレンジ部門	フラワーバレンタイン推進委員会 (会長 井上英明) (東京都)
2011 (6回)	育種・生産部門	株式会社クロカワストック (代表取締役 黒川 幹) (千葉県)
	流通・販売部門	岐阜花き流通センター農業協同組合 (代表理事組合長 加藤孝義) (岐阜県)
	チャレンジ部門	日本クリスマスローズ協会 (会長 畑中孝晴) (東京都)
2010 (5回)	育種・生産部門	有限会社角田ナーセリー (代表取締役 角田 篤) (愛知県)
	育種・生産部門	J Aとびあ浜松 浜松PCガーベラ (部会長 中嶋宗一) (静岡県)
	チャレンジ部門	ちば花と緑の会 (代表 前林健一) (千葉県)
2009 (4回)	育種・生産部門	草野修一氏 (有限会社綾園芸 代表) (宮崎県)
	流通・販売部門	株式会社ジョイフル本田 (代表取締役社長 小平 武 取締役名誉会長 本田昌也) (茨城県)
2008 (3回)	育種・生産部門	鷺澤幸治 (秋田国際ダリア園 園長) (秋田県)
	流通・販売部門	群馬県あじさい研究会 (群馬県)

日本フラワービジネス大賞2017の受賞者の概要

平成30年1月9日

2007 (2回)	育種・生産部門	タキイ種苗株式会社 (代表取締役社長 滝井傳一) (京都府)
	流通・販売部門	株式会社パーク・コーポレーション (代表取締役 井上英明) (東京都)
2006 (1回)	育種・生産部門	八幡平市花き開発センター (岩手県)



いいこと
あった日、
花を買う。

花っていいよね。キャンペーン

(問い合わせ先)

一般財団法人日本花普及センター

〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-6-17 山一ビル4階

TEL: 03-3664-8739 FAX: 03-3664-8743

Eメール: jfpc@jfpc.or.jp <http://www.jfpc.or.jp>